東山梨地区　国語科教育研究部会報告

１、研究テーマ

思考力・判断力・表現力を育む国語科の指導～言語活動の充実を通して～

２、研究の経過と概要

東山梨地区国語科教育研究部会では、生徒の実態を踏まえて平成２３年度より上記のようなテーマで研究を行ってきた。コミュニケーションツールの変化や人間関係の希薄化、情報があふれている現代社会において､生徒にとってより良い人間関係を構築していくための表現力や、自分で考え判断し必要な情報を取捨選択していく力が､今まで以上に重要なものとなってくる。国語科の果たす役割は益々大きなものとなっていくだろう。

本部会では、小学校・中学校の二部会に分かれての研究体制をとっている。それぞれの部会ごとの研究に加えて、冬季はお互いの授業交流を図り、子ども達の発達段階に応じた指導方法を学び合っている。小中の連携を今後も深めていきたい。

３、今年度までの授業実践の経過

年度	授業実践の内容
２４年度	・敬語を生活の中で生かそう ～敬語の働きについて知り、生活の力に生かす力～ ロールプレイングで場面に応じた使い分けを考えたり身につけさせたりすることを目指した授業。言葉が「気持ち」を伝えるものだと再確認した生徒達。 ・子ども達のコミュニケーション能力を育むために 小学校との共同研究。互いが尊重されるような形で話し合うことのためにグループ編成や聞く側のスタンスについて考えた。
２５年度	・登場人物の心情を読み取り、考えを交流しよう ～登場人物の言動から読みを深め、自分の考えを持つ力～ 「字のないはがき」を読んで、様々な描写から「父」の思いを読み取ることを目指した。「父」の視点から文章を書き換えることで、心情理解に迫ることができた。 ・登場人物の行動や考え方から人物像の変化を読み味わう ～ひとつひとつの言葉(描写)をもとに丁寧に読み取る力～ 「走れメロス」を読んで仲間と意見を伝え合う中で、自分なりの「メロス像」を書いた。交流をすることで得た新たな発見を、作文に生かすことができた。
２６年度	・小説を読もう～話のその後は？「物語の続きを考えてみよう」 ～読んだことを基に、仲間と感想を交流し、物語のその後を想像して書く～ 山川方夫氏の「夏の葬列」を題材に、場面ごと疑問点や気になった点を確認しながら、話の今後の展開を考える授業を行った。仲間の読みを知り、自分の読みをふり返ることができ、考えの根拠を文章中に求めることを意識させたことで、より丁寧な読み取りへとつながった。物語の続きを書くことは、心情の変化をしっかりと捉えておく必要があるため、深い読みをするためには、とても有効な手段であった。

４、今年度の研究について

今年度は９月に山梨市立山梨南中学校３年生において

「挨拶」を読み、意見を交流しよう～意見交流から、自分の考えをまとめよう～

という言語活動の授業を行った。石垣りん氏の「挨拶」を題材に、なぜ作者は「挨拶」という題名をつけたのか作者の思いを捉え、意見交流をし、自分の考えをまとめる授業である。「ワールドカフェ」という話し合いの手法を用い、生徒それぞれが持っている知識や考えなどを活用し、他者とのかかわりを通して自分の考えを深めることができた。また、第１ラウンドで「わからない」と書いていた生徒も第２ラウンド・全体交流の活動を経て、自分の考えを持つことができていた。

生徒の実態として、「登場人物の心情理解」「行動と理由の読み取り」に苦手意識を感じている生徒が多くいるという結果が出ている。豊かな表現力を身に付けさせるためにも、丁寧に読み取ること、根拠を明確にすることは、とても大切なことである。生徒同士の交流が活発になるとさらに効果的な授業が仕組めると思われる。部会として、今後の課題としていきたい。

今後は２月に小中合同の研究授業研究を予定しており、中学校部会で授業を行う予定である。

５、本年度研究部員

部長　佐々木梢（塩山中）　　副部長　宮澤梨歌（塩山北中）

部員　日野原裕子・早川麻里・奥山彩佳（山梨南中）

倉田憲一・丹澤基予子・一瀬ひとみ・糠信恵理香（山梨北中）

武井善史（笛川中）・数野透（塩山中）・杉田由之・依田久幸（松里中）

平山直樹（勝沼中）

指導助言　広瀬真次校長先生（塩山北中）・齋藤昌志教頭先生（笛川中）

第３学年　国語科学習指導案

授業者　山梨南中学校
早川　麻里

１　単元名　「挨拶」を読み、意見文を書こう
～意見交流から、自分の考えをまとめよう～

２　教材名　　状況を読む「挨拶―原爆の写真によせて」（光村図書　３学年）

３　単元について

（１）作品について

「挨拶―原爆の写真によせて」は、作者が原爆の犠牲者の顔写真を見て作られた詩である。

従来、広島の原爆投下を素材とした作品の多くは、戦争の犠牲者への哀悼や鎮魂が主題であったが、この作品は、過去を教訓とし、これからをどう生きるかという問題を提起している。地球上に原爆を所持している国や人たちが存在する現実があるにも関わらず、今の平和や幸福が永遠に続くと思い込んでいる現代を生きる私たちへの警鐘を鳴らす作品ともいえる。私たちを取り巻く厳しい社会状況に気づくことで、これからの時代を生きる生徒たちが自らの生き方を考えるにふさわしい作品であろう。

（２）単元について

言語活動の充実が求められるなかで、小グループでの交流や話し合い活動の場を意図的に取り入れてきた。小グループでの意見交換は、学習への参加意欲を高めたり、友だちとの関わりの中から自分の考えを形成するきっかけづくりになったりする点において効果的であると実感している。そこで、さらなる深みや広がりをもった発展的な話し合い活動を仕組んでいきたいと考える。

「ワールド・カフェ」とは「メンバーの組み合わせを変えながら、４～５人単位の小グループで話し合いを続けることにより、あたかも参加者全員が話し合っているような効果が得られる会話の手法」である。各自がもっている知識や考えなどを活用し、友だちとの関わりを通して自分の考えを深め、広げることのできる効果的な交流のあり方ではないかと考える。

（３）生徒について

本学級生徒の国語についての学力分析では、物語文の読解にはある程度の力がついているものの、登場人物の心情理解に苦手意識を感じている生徒が多くいるという結果が出ている。文

字として表記されていることについては論理的な思考で読み取れるが、直接的に表記されていない登場人物の心情理解や心情の変化について、描写などをもとに想像することに課題がある。詩は、書かれていない部分をいかに読み取れるかということが問われるため、時代背景や語句・表現の工夫をしっかりと捉えることや、グループでの意見交流を通して、一人ひとりの考えを深めていけるよう指導したい。

「書くこと」については、「伝えたいことを明確にし、整理して書く」ことに課題がある。詩から読み取ったことやワールド･カフェで取り入れた友だちの意見をもとに、自分の考えをもち、それを適切な言葉に表現できるようにしたい。

戦後７０年を迎え、テレビや新聞などでは戦争に関する特集が組まれてはいるが、生徒たちの戦争や平和に対する関心は薄いものである。過去のもの、自分たちとは関係のないものとして捉えている生徒が多くいる。だからこそ、これからの未来を担う中学生に、戦争というものや現代社会が抱える問題について真摯に向かい合わせたい。そして、戦争や平和について深く考え、未来に向けてしっかりとした意見をもってもらいたい。

４　指導計画と評価計画

（１）単元目標

①特徴的な表現や語句に着目させ、詩に込められた作者の思いを読みとらせる。

②現代を生きる人間や社会のあり方についての自分の考えを明確にし、説得力のある文章を書くことができる。

（２）評価基準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
①状況を自分なりに想像しながら詩を読み、主題を捉え、人間や社会のあり方について考えようとしている。 ②論理の展開を工夫し、自分の立場や意見を明確にして説得力のある文章を書こうとしている。	①課題について、論理の展開に工夫し、説得力のある文章を書いている。	①詩に用いられている多様な語句について、理解を深めている。 ②学年別漢字配当表に示されている漢字を適切に使って文章を書いている。

（３）学習過程の概要（単元構想表）

単　元　（教材名）		挨拶				
言　語　活　動　例		ア　詩歌や物語などを読み，内容や表現の仕方について感想を交流すること。				
指　導　事　項		「挨拶」を読み，意見文を書こう	重点	学　習　活　動	評　価　規　準	時
ア	【語句の意味の理解】 文脈の中における語句の意味を的確にとらえ，理解すること。			・「挨拶」を読む。 ・新出漢字や文脈の中における語句の意味を調べる。 ・実際に写真を見せ，詩の背景にある歴史的事実を理解し，詩に対する感想をもつ。	・重要な語句について、辞書を引いて調べるとともに、詩の中での用いられ方に着目している。 ・詩に対する疑問や考えなど、自分なりの感想をもっている。	1
イ	【文章の解釈】 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み，内容の理解に役立てていること。			「顔」「りつぜん」などの特徴的な表現に着目し，内容を確認する。	・特有の語句の使い方や表現から、作者のものの見方や感じ方を捉えている。	2 3
ウ	【自分の考えの形成】 文章の構成や展開，表現の特徴について，自分の考えをもつこと。		○	展開の工夫や表現の特徴などをもとに，作者は「挨拶」という題名をなぜつけたのか考え，「ワールド･カフェ」形式でグループで意見交流をする。	・現実の世界と重ね合わせながら、詩の内容と主題を理解している。 ・グループでの意見交流を活発におこない、自分の考えの形成に生かしている。	4
エ	【自分の考えの形成】 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ，自分のものの見方や考え方を広くすること。		◎	これまでの学習をもとに，自分の考えを明確にし、意見文を書く。	・これまでの学習で得た知識や友だちとの意見交流を通し、自分の考えをまとめている。	5

５　本時の展開

（１）日時　　平成２７年８月２８日（金）　午後２：００～２：５０
（２）場所　　山梨南中学校　３年３組教室
（３）本時の目標
・ワールド・カフェでの意見交流を通し、視野を広げ、新たな視点から物事を考えることができる。
（４）授業の展開

過程	学習活動	支援および指導上の留意点	評価
導入（３分）	１　前時までの振り返り ２　本時の目標を知り、学習の流れを確認する。 なぜ作者は「挨拶」という題名をつけたのか。作者の思いを捉えよう。	・生徒が見通しをもって学習に臨む姿勢を作る。	
展開（４０分）	３　「なぜ作者は『挨拶』という題名をつけたのか」というテーマで話し合いをおこなう。 ・グループに分かれ、ワールド・カフェ （第１ラウンド～第３ラウンド） ・４人１組、８グループ ・第１、第２ラウンド　５分 ・第３ラウンドのみ１０分、まとめの話し合いと発表の準備をする。 ４　全体での意見交流　　２０分 ・各グループで話し合われたことを発表する。 ・ワークシートに「友だちのグッド意見」をメモしながら発表を聞く。	・「ワールド・カフェ」での話し合いの目的、流れを確認させる。 ・テーマに対して、生徒たちが気軽に考えを出し合えるような、リラックスできる環境を作る。 ・各グループのシートを黒板に貼っていき、各グループの考えが見えるようにする。	・観察 ・話し合いの様子 ・発表の様子 ・ワークシート
まとめ（７分）	５　本時の学習を振り返り、自分の考えをワークシートに記入する。		・ワークシート

「ワールド・カフェ」について

　メンバーの組み合わせを変えながら、４～５人単位の小グループで話し合いを続けることにより、あたかも参加者全員が話し合っているような効果が得られる会話の手法です。その名が示すようにカフェのような、リラックスした肩の凝らない雰囲気ができやすいことから、プロジェクトやチームの、様々な利害関係者の新しい人間関係作りを進めていきたい場面などに使われることも多いようです。　（香取一昭・大川恒　著「ワールド・カフェをやろう！」より）

①テーマについて探求する（第１ラウンド）

４人ずつテーブルに座ってテーマについて話し合う。

⇩

②アイディアを他花受粉する（第２ラウンド）

ホストを残して他のメンバーは旅に出る。

⇩

③気づきや考えを統合する（第３ラウンド）

旅人が元のテーブルに戻り、アイディアを紹介し合い話し合う。

⇩

④集合的な発見を収穫し、共有する（全体セッション）

ホストがファシリテーター（司会）となって、全体で共有する。

「ワールド・カフェ教室版」

	学習活動	時間	活動の概要
1	課題の確認	５分	・本時の課題の確認
2	第１ラウンド	１０分	・第１ラウンド ・４人１グループ ・第２ラウンドに向かうさい、ホストを１名決め、その場に残る。ホスト以外は新たな視点を求め、他グループに旅立つ。
3	第２ラウンド	１０分	・新たなグループで第２ラウンド ・ホストはグループで話し合われたことを他グループからの旅人に説明する。
4	第３ラウンド	１０分	・第３ラウンドは第１ラウンドと同じメンバー ・ホストが中心となり、さまざまな視点をもとに課題解決のための集約に入る。
5	全体交流	１０分	・各グループで話し合われたことを発表する。 ・自分の考えを振り返りシートに記入する。

●生徒のワークシートより

【ワールド･カフェ前に「わからない」と答えた生徒】

・原爆が落とされたことは、挨拶のように忘れてはならないから。挨拶は、平和の象徴であると思う。

・朝の時間にする挨拶は平和の証だから。

・筆者ではないのでわからない。挨拶と関わる詩の部分がわからない。

・挨拶は 8 時 15 分という原爆を落とされた時間帯に毎朝するものだから。

【ワールド･カフェ前に「毎朝何気なく交わしている挨拶ができなくなる日がくるかもしれないから」と答えた生徒】

・原爆が落とされたことと、当たり前に挨拶ができることを忘れてはいけないと伝えたかったから。挨拶は今当たり前にできるけれど、当たり前ではなかった時代があったことを忘れてはいけない。

・原爆によって亡くなった人へ、写真を通してやっと挨拶ができたから。

・もう死んでしまった人とは挨拶はできない。できるなら、挨拶をいつも通りにしたかったから。

・戦争時代に亡くなった人へ何かを伝えたかったから。

・挨拶できるということは生きているということだから。

【ワールド･カフェ前に「原爆を落とされたのが挨拶の時間だったから」と答えた生徒】

・挨拶ができるということの大切さを読者に考えてほしかったから。

・原爆の被害に遭った人を目の前にして、作者が改めて挨拶をしたから。

・挨拶ができることは平和の証であるから。

・原爆によって、これまでの日常が非日常に変わってしまった人たちがいた。明日が必ず来ると思っている私たちへ挨拶ができることの大切さを教えるため。

・原爆が落とされたことを忘れてはいけない。また、挨拶ができるという喜びも忘れてはいけない。

【ワールド･カフェ前に「写真を見て、亡くなった人に対して挨拶をしたから」と答えた生徒】

・明日は必ず来るとは限らない。今できる挨拶を大切にしてほしいという思い。小さなことを大切にしていきたい。

・挨拶ができるということの喜びを感じてほしいから。

・挨拶をすることは当たり前のことである。この当たり前が平和であるという証拠。平和であるといううえで成り立っていること。一日一日を大切にしてほしいということを伝えたかったから。

・挨拶をすることで自分が今、生きていると実感できるから。今を生きているという喜びを感じてほしいという作者の思い。

・日常を過ごすためには、恒久の平和が必要。挨拶に代表される日常は、平和によって支えられているから。

●成果と課題

本時の授業について

・教職員の「仕組み」「ねらい」「計画」が大切。生徒たちに何を学ばせ、どんな力をつけさせたいのか、明確にもつこと。

・詩の読み取りはよくできていた。

ワールド・カフェについて

・考えや視野の広がりをもたせるためには有効的であった。しかし、ワールド・カフェをどういう場面、段階で用いるのか考えなければならない。情報交換のために使うのか、内容理解を深めるために使うのか。

・テーマ選びが肝心。生徒の身近なことをテーマに選ぶとさまざまな意見が出てくる。自分の考えや行動に結び付けられる方向にもっていけるものが向いている。今回のテーマ設定では、「挨拶」という言葉の意味にとらわれてしまい、答えが詩から離れてしまったときがあった。挨拶に関する表現を探させるなど、詩の言葉に戻って考えさせることが大切。

・ホストが機能的に働くか。書いてあることをただ読むだけでなく、これまでの話し合いの流れを説明できる力をもたせたい。役割に慣れることが大切。何度もやってみることでスムーズに話し合いができるようになる。

・ワールド・カフェで出た意見をグループで発表するさい、どのように発表するのか。出た意見を一つにまとめて発表するのか、出た意見をそのまま発表するのか。

意見文について

・ワールド･カフェにより、自分の考えだけでなく友だちの考えが支えとなり、これまで意見をもつことに自信のなかった生徒がしっかりと書けるようになった。

・時事的な話題に触れて書いたり、人から聞いた話について自分の意見をもって書いたりすることができた。これまでの自分の考えから一歩進んだ、新たな世界を広げようとする姿がうかがえる。

・詩の中に出てくる「りつぜん」という言葉を、早速使用して文章を書いている生徒がいた。新たな言葉を獲得し、それを活用しようとする気持ちは大変意味のあることである。

・ワールド･カフェで自分の考えを広げることはできたが、深めるという段階には達しなかった生徒もいる。そのため、意見文もワールド･カフェを踏まえなくても書けるような一般論にとどまってしまったものがあった。